

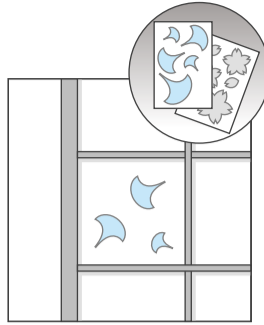
家のお手入れ



障子紙が破れた場合の部分的補修

補修シールを使う方法

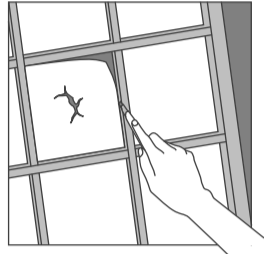
小さな破れなら穴の上に貼るだけで補修できる補修シールがおすすめ。和紙でできていて、桜、梅、星、もみじなどの形があり、色も白のほか、桜は淡いピンク、もみじは薄緑のものもあります。いかにも補修したという感じを避けたいときは、まわりにもシールを貼って、模様に見せることも可能。また、部屋の間仕切りや廊下に面した障子など、両側から見える障子の場合は、同じ形のシールを2枚用意して、両側から形がピッタリ合うように貼るときれいです。



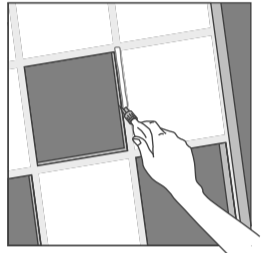
マスを張り替える方法

やや大きく破れた場合は、そのマスのみ張り替えるとよいでしょう。手持ちの障子紙で張るのもよいですが、草花などの透かし模様が入った修理用の障子紙や、色付きもの和紙などを使って市松模様にするなどデザイン張りをすると、おしゃれに仕上がります。

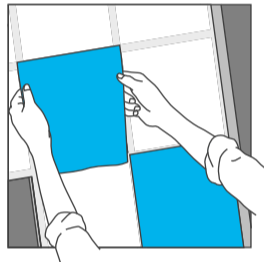
1 破れた部分の棧によく切れるカッターをそわせて、マスごと紙を切り取る。



2 張り替えるマスの周囲の棧の幅も含めたサイズを測り、その大きさに新しい紙を切る。障子を裏返し、張り替えるマスの四辺の棧に障子用ノリをつける。



3 新しい紙の上辺の両サイドを持ち少し引っ張るような感じで、棧の外にはみ出さないように注意しながら張る。その後、手の甲で軽く押さえる。



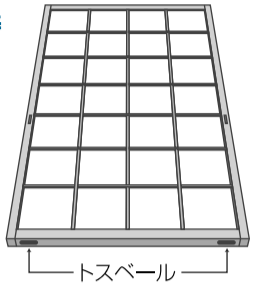
障子の張り替え

【一枚張りで張る方法】

One Point Advice

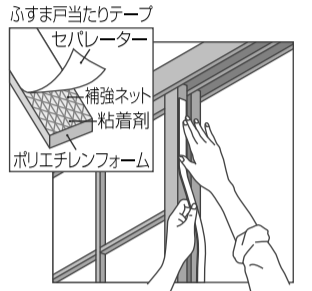
すべりが悪い場合の改善

障子やふすまの下の部分に張るだけで滑りがよくなる“トスペール”が便利。汚れを落とすことから2カ所に貼ると開閉がスムーズになります。



開け閉めの際の騒音防止

障子やふすまを閉める音が響く場合は、柱に当たる枠の部分にクッション性のあるテープを貼るとよいでしょう。音がやわらぐうえに、すき間風も防ぐことができます。ポリウレタン発泡体を使った“ふすま戸当たりテープ”なら、補強ネット入りなので、はがすときもきれいにはがせます。



障子の張り替え (一枚張りで張る方法)

かつて障子の張り替えというと、美濃判や半紙判と呼ばれる小さなサイズの障子紙を何段にも重ねて張る方法が主流で、手間がかかり、きれいに張るにはある程度のテクニックも必要でした。しかし、現在は継ぎ目なしにきれいに仕上がる一枚張りが中心となり、障子張りの道具も便利なものが発売されているので、たいへん簡単に張り替えることができます。障子紙は1~2年に1度張り替えるのがベスト。気軽に張り替えてみてください。

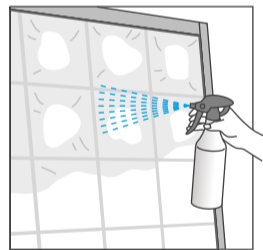
ノリつき障子紙で張り替える方法

1 障子をはがす

張り替える枚数が多いときは、どのレベルにあったかを間違えないように、しるしをつけておく。障子はずれにくければ、位置を変えるか、誰かに鴨居を押し上げてもらってはがすとよい。また、雪見障子のすり上げ障子(上下する部分の障子)は、左部分にバネが入っているので、左側に少し押し込むようにすると、右からはがれる。

2 古い障子紙の棧部分に水をつける

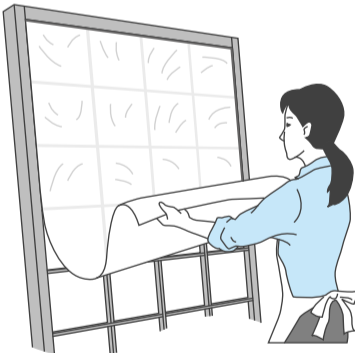
ハタキなどで障子全体のホコリをはらった後、ノリつきの面を表にして立て掛け、ノリバケかハンドスプレーで棧全体に水をたっぷり含ませる。このとき、はがしにくいようなら、市販の障子紙はがし専用の“はがし割”を使うのも手。



- 用意するもの**
- 一枚張りタイプの障子紙
 - 割り箸
 - 雑巾
 - セロテープ
 - 容器入り障子用ノリ
 - カッター
 - 定規、またはカッターガイド

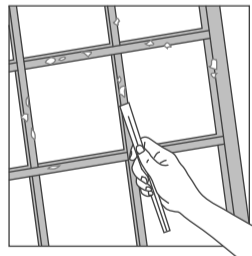
3 古い障子紙をはがす

2~3分してノリがふやけてきたら、上か下どちらでもよいので両端をめぐり、両手で紙の端を持って、ゆっくりはがしていく。



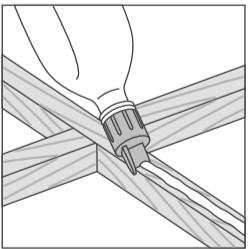
4 棧をきれいに拭く

棧に残っているノリや紙を割り箸でこすり取ってから、障子の棧を固く絞った布で拭きあげる。棧が濡れたところに障子紙を張るとシミができるので、乾くまで陰干ししておく。



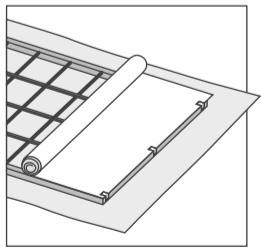
7 棧と枠にノリをつける

容器入り障子用ノリのガイド部分を棧の側面にそわせて引きながらノリを押し出す。枠の周囲も同様にのりつける。



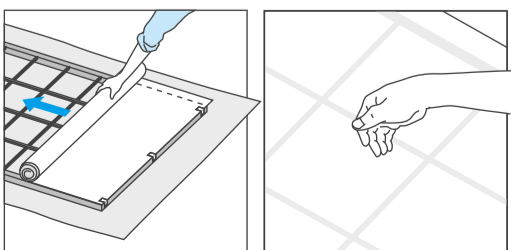
5 障子紙を仮どめする

ノリがたれても困らないように新聞紙などを敷いた上に、張る面を上にして障子紙をのせる。障子の枠から障子紙のロールを50cmぐらい広げ、左右のどちらかの外枠の端に合わせて、曲がらないか確かめてからセロテープで3~4カ所とめる。



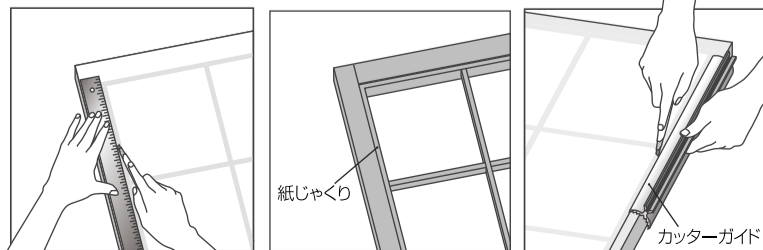
8 障子紙を張る

外に置いておいた障子紙を枠にのせ一気に転がして張り、棧と枠の部分を手の甲で軽く押さえる。



9 余分な紙を切り取る

カッターの刃を新しくして定規を当てながら周囲の余分な障子紙を切り取る。障子の外枠に“紙じゃくり”という浅い段がある場合はその線にそって、ない場合は枠の内側から6mmほど残して切る。このとき、内側に段差のある溝があり、切りたい位置で固定して障子紙がカットできるカッターガイドを使うと便利。



※かつては張り終わった後に霧吹きするのが一般的だったが、一枚張りの場合は基本的に不要。どうしても霧吹きをしたい場合は、1日くらいおいて完全に乾いてから軽く行うようにする。

アイロン張り障子紙の張り方

ノリづけ不要なアイロン張り用障子紙を使えば、張り替えがさらに簡単にできます。

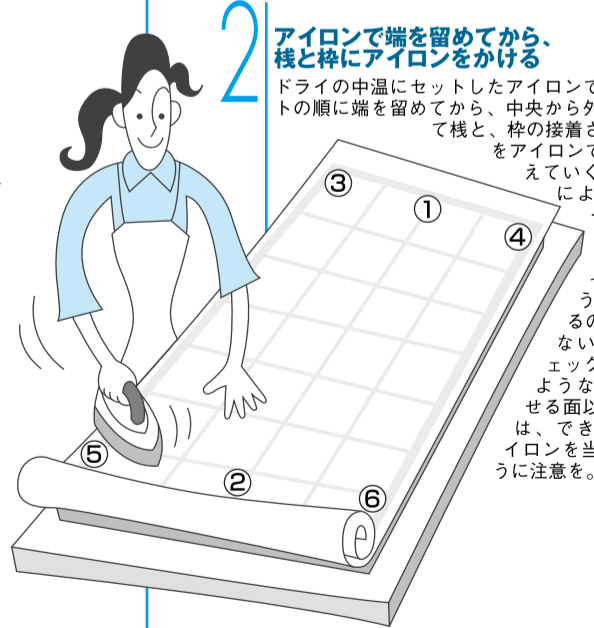
- 用意するもの**
- アイロン
 - 延長コード
 - カッター
 - 定規、またはカッターガイド

1 障子にアイロン張り障子紙を広げる

貼る面を上にして障子紙をのせ、障子紙の粘着面を下にして、曲がらないように広げる。

2 アイロンで端を留めてから、棧と枠にアイロンをかける

ドライの中温にセットしたアイロンで、イラストの順に端を留めてから、中央から外に向かって棧と、枠の接着させる部分をアイロンで軽く押さえていく。障子紙によってはアイロンを当てると、かかってしまう種類もあるので目立たない箇所をチェックし、光るようなら接着させる面以外の紙には、できるだけアイロンを当てないように注意を。



3 余分な紙を切る

一枚張りと同じ要領で余分な紙を切る。余分な紙が枠に貼りついてしまった場合は、アイロンをかけながらはがすと簡単にはがれる。

※アイロンで張った障子紙を張り替えるときも、アイロンを当てながらはがすとよい。